

“わりい”の催し 2018年度 第12回市民協働フェスティバル「まちカフェ」

2018年12月2日（日）10:00～16:00 場所：町田市役所全館

第12回市民協働フェスティバルの「まちカフェ」が、昨年12月2日（日）に町田市役所の1階から3階のフロアーいっぱいにかれました。正面玄関付近にはいくつもの飲食のコーナーが設けられています。年々盛んになっているようですが、今年のテーマは「未来と感動を共有するまちだ」です。町田市内で活動するNPO団体、市民サークル、町内会、自治会などの約80に上る団体が一堂に会し、活動状況の発表や手作りの工芸品、取れたての新鮮な地場野菜の販売などを通じて交流を深めるイベントです。

フェスティバルは、午前10時に石坂市長の開会宣言でスタート。わりいは今回が4度目の参加で、前回同様ラオスの少数民族のモン族の刺繍小物の販売と、午後からは恒例の満さんの水墨画教室を開きました。わりいの割り当てスペースは、これまで2階や3階でしたが今回初めて1階となり、しかも正面玄関に近く人通りの絶えない場所になったので、筆箱、保険証入れ、財布などのモン族の小物はかなり販売することが出来ました。山岳民

族で貧しい生活をしている少数民族をわりいが支援していることを知り、わざわざ遠くから足を運ばれ沢山購入してくださった方も何人かいらっしゃいました。ちなみに蒙の小物は、織り方がしっかりしておりデザインと色合いも素晴らしく何度洗濯しても型崩れしないのが特徴です。

水墨画教室は、前回に続き今年の干支である「亥」が題材にされました。子どもさんの参加が多く、今回は午後の2回だけの教室でありスペースも限られているのでお断りする方もいました。子どもさんの後ろで見ていた親御さんたちは、「水墨画っていいですね。来年の年賀状はこの絵にしようと思います」と言われていました。水墨画は展覧会などで見ることはあっても、実際に自分で描いてみる機会はほとんど無いので子供さんたちは目を輝かせながら取り組んでいました。

わりいのメンバーは、子供さんたちに寄り添いお手伝いしていましたが、喜び顔を見ながら充実感に浸っていました。「まちカフェ」は、午後4時にお開きとなりました。

（報告：寺西 俊英）

